

事業実績報告書

様式 2
(2022年度)

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

講座番号	B-16	講座名	夜の東山の森で虫たちを灯火採集！
記載日	11月28日	団体名・企業名	なごやの生き物調査の会

今年で17年目になる東山の森での昆虫の灯火採集調査です。全4回の講座は灯火採集の基礎知識から虫の採集の具体的な方法を説明、実演する第1回の座学に始まり、翌週第2回の屋外実習で灯火に集まる蛾類と甲虫類を採集、その翌日第3回の講座で採集した虫の標本作りをしました。11月の第4回報告会では採集した虫たちから得られたデータから、森には多くの生き物がくらしていること、名古屋の森の環境がこの多様な昆虫の命を支えていることを伝えました。灯火採集は初めての参加者も経験者も熱心に参加し、標本作りでは子どもも大人も夢中になりました。感染症予防の観点から実習の場所を2ヶ所にして受講者を半分ずつに分けて密を避けるなど、様々な工夫をして実施しました。



※写真1の説明

7月17日第2回灯火採集の場面(なごや東山の森) 白幕にやってきた昆虫を観察中。

※写真2の説明

7月18日第3回標本づくり(千種スポーツセンター 会議室) 子どもたちが作成したガの展翅

〈 企画・運営者の声(感想) 〉 (350字程度)

毎年屋外実習(灯火採集)の日は何日も前から天気が気になりますが、今年はどうも雨になってしまい1日順延となりました。翌日の屋内実習(標本づくり)の会場の確保など、様々なケースに備えた十分な段取りが大切なことを改めて実感しました。また今年も引き続き感染症対策を念頭に置いて講座を運営する必要があり、それに伴う苦慮苦悩も続いています。注意深く講座を進めることで参加者からも信頼を得られるという印象もあり、限られた環境の中であって最大限に自然体験や生きものの不思議や面白さを伝えられたと思います。たくさんの虫たちの命を支える東山の森が貴重な存在であり、今日ある森がこの先もずっと変わらずあり続けることが重要であること、そしてその持続性は、多くの生き物の一員である私たち人間の暮らしにもつながるものであることを今後もねばり強く伝えていきたいと思えます。

〈 受講者の声(実感した反応及びアンケートより) 〉 (3~5点、計350字程度)

灯火採集設備の周囲ではセミの羽化やカラスウリの開花が見られ、夜にしか見られない自然に触れることができたことに参加者の多くが感動していました。参加者にとって灯火採集と併せて心に残る経験となったように思われました。

- ・初めての灯火採集でしたが、いろんな虫が集まり、勉強になった。また来年も参加したいと思いました。
- ・いろいろな甲虫、ガがとれて楽しかったです。
- ・いろいろな昆虫を見ることができた。
- ・甲虫や蛾をたくさんつかまえてよかった。
- ・子どもたちが楽しんでた。カラスウリの花やニイニゼミの羽化などめずらしいものが見学できた。
- ・子どもと楽しい時間を過ごすことができた。
- ・甲虫の見分け方がむずかしかったですが勉強になりました。